



平成29年産の水稲栽培も後半を迎えてきました。今年は、活着から分けつ期の天候に恵まれ初期生育は旺盛で、平年よりも茎数は多くなっています。また、一部の圃場で藻が発生し対応に苦労された圃場も見受けられました。

## 一、穂肥施用のポイント

幼穂が形成されていないうちに穂肥を施用すると倒伏の危険性が高まります。幼穂の長さ(写真1)と葉色板で葉色を確認し(写真2)葉色が濃い場合は量を減らしたり、時期を遅らせるなどの調整を行って施しましょう。(表1)

写真1：幼穂の確認  
幼穂長を確認し穂肥を施用する

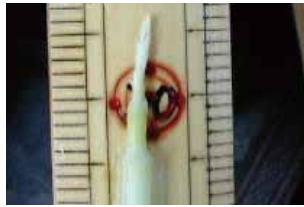


写真2：葉色の測定  
葉色 3.5~4.0で穂肥を施用する



表1 穂肥施用の目安 (PK セーブエコ 480 使用の場合 単位 kg/10a)

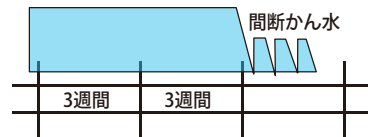
移植日	品種	穂肥Ⅰ		穂肥Ⅱ		穂肥Ⅰ施用のめやす	
		時期	施用量(kg)	時期	施用量(kg)	葉色	出穂前日数(幼穂長)
5/5	コシヒカリ	7/9	15	7/16~19	15	3.5以下	18日前(5~10mm)
5/5	キヌヒカリ	7/3	20	7/10~13	20	4.5以下	25日前(1~2mm)
5/5	日本晴	7/12~14	30	-	-	4.0以下	25日前(1~2mm)
5/5	秋の詩	7/16~18	20	7/23~25	15	4.0以下	21日前(2~4mm)
5/5	滋賀羽二重糯	7/25	15	8/1	15	3.5以下	18日前(5~10mm)

※基肥一回タイプの肥料(楽しょう君)を使用されている場合は穂肥の施用は不要です。

## 二、出穂前後の水管理

出穂前後3週間の湛水管理(図1)で品質向上とカドミウム吸収抑制を目指しましょう。

図1 カドミウム吸収抑制対策の水管理  
出穂前後3週間は水を切らさないように保つ



品種名	湛水期間
コシヒカリ・キヌヒカリ	穂肥Ⅰ施用後~8月中旬頃まで
日本晴・秋の詩	穂肥Ⅰ施用後~8月下旬頃まで
滋賀羽二重糯	穂肥Ⅰ施用後~9月上旬頃まで

## 三、病害虫防除

いもち病(写真3)は、雨が続きと発生しやすくなりますので、早期発見、早期防除に努めてください。カメムシ(写真4)は、水稲の一斉防除と合せてイネの出穂前後2回の畦畔草刈りを実施することにより、被害を軽減することができます。



写真3：いもち病



写真4：カメムシ



写真5：斑点米

## 栗東市病害虫防除協議会 よりお知らせ

稲作栽培の安定と品質向上のため、水稲の出穂期に合わせた農業組合単位の防除を予定していますので、ご理解と、ご協力をお願いいたします。

事務局: JA栗東市営農課  
栗東市役所農林課

## この時期よくある質問 水稲栽培Q&A

**Q** 毎年、7月末から水稲一斉防除によるカメムシ対策をしていますが、カメムシは水稲にどのような被害を与えるのでしょうか?

**A** カメムシは稲の穂を吸汁して玄米に斑点(写真5)を作るため、米の品質を損なう原因となります。斑点米を減らすためにも一斉防除と併せてイネの出穂前後2回の草刈りを実施しましょう。

# 野菜づくり

今月は  
夏野菜の  
梅雨時の対策



皆さん、夏野菜は順調に収穫できていますか？梅雨の時期は湿度が高いため病気の発生が多くなりますが、梅雨が明けて晴れの日が多くなり気温が高くなると害虫の発生が増えてきます。今回は、夏野菜の害虫対策についてお話をします。



## ■夏野菜の害虫対策

### ☆ここがポイント！

①日当たりと風通しを良くする  
日当たりの悪い場所で野菜を育てると野菜の光合成が阻害されてしまい生育不良の原因になります。野菜の生育が悪くなると害虫への抵抗力が弱くなり害虫が付きやすくなります。栽培中は密植を避けて適度に間引きをしましょう。

②野菜の植え付け場所の除草  
害虫は野菜だけに発生するわけではありません。野菜周辺に生えている雑草や間引きした枝や葉を摘んだ場所などには害虫が発生して繁殖場所になります。雑草は早いうちに除草して、枯

れた枝や葉は放置しないようにしましょう。

## ③肥料の与えすぎと肥料不足には注意

大きく育てようと肥料を与えすぎると軟弱に育つてしまい、害虫被害が拡大する原因にもなります。また、肥料不足だと害虫への抵抗力が低下する原因となります。適切な肥料の施肥を心掛けることが害虫対策につながります。

## ④薬剤による防除

この時期に野菜に発生する害虫は一度発生すると爆発的に増加し、放置しておくと圃場全体に拡大します。害虫の発生を確認した場合は早期に薬剤による防除を実施しましょう。

## ■夏野菜によく発生する害虫

・ダニ類（ナス、ピーマン、トマトなど）

夏野菜全般に発生する害虫です。体長は0.5mm程度とかなり小さいです。高温で乾燥した日が続くと発生が多くなります。ダニは数が増えてくると蜘蛛の巣状の網をかける習性があり、野菜の頂上付近の葉先に蜘蛛の巣のようなものがあればダニを疑ってみましょう。

## 薬剤防除

・マロン乳剤  
・ニッポン水溶剤



ダニ類

## ・アブラムシ類（夏野菜全般）

こちらも夏野菜全般に発生が多い害虫です。体長は2〜4mm程度の大きさです。葉や茎に寄生して葉や茎の汁を吸います。その際、ウイルス病を媒介するので早目の防除を心掛けましょう。

## 薬剤防除

・スミチオン乳剤  
・モスピラン水溶剤



アブラムシ類

・アザミウマ類（ナス、トマト、ピーマン、キュウリ、カボチャ）

アザミウマは別名スリップスと呼ばれる多くの野菜に発生するやっかいな害虫で、体長は1〜2mm程です。野菜の葉だけでなく茎・葉・花なども吸汁します。食害跡は、野菜の種類や部位によって異なりますが、葉に白い斑点が点く、果実が白く腫れた状態になる、蕾が開かなくなることがあります。

## 薬剤防除

・モスピラン水溶剤



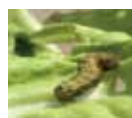
アザミウマ

・ハスモンヨトウ（エダマメ、トウモロコシ）

ヨトウムシは蛾の幼虫で、様々な野菜を食害するやっかいな害虫です。特に幼虫期は新芽を好んで食べるため、新芽がすべて食い尽くされ野菜が全く育たなくなりました。

## 薬剤防除

・アフアーム乳剤



ハスモンヨトウ

※農薬の使用にあたっては、お手持ちの農薬のラベルの記載内容に従ってください。

## 今月のレシピ



## トウガンの夏煮しめ

### ★材料（4人分）

トウガン	大1½(300g)
カボチャ	1½(250g)
オクラ	大8個(80g)
干しシイタケ	4枚
高野豆腐	2枚

### ★作り方

- 干しシイタケはかぶるくらいの水につけてやわらかくもどし、軸を切り落とす。もどし汁はAのだし汁と合わせる。
- トウガンとカボチャは、それぞれ種とわたを除き、皮をむいて食べやすい大きさに切る。トウガンは表面に切り目を入れる。オクラはがくを除いて塩少々をまぶしてこすり、色よくゆでて水けを切る。
- 高野豆腐は表示どおりにもどし、食べやすく切る。
- 鍋にA、①のシイタケ、②のトウガン、③を合わせて中火で煮たてる。落としぶたをし、弱火で5分煮る。カボチャを加えて8分煮、火を止めて冷ます。
- 保存容器に④、オクラを入れ、冷蔵庫で冷やす。器に盛り、青ユズの皮をふる。

### 上品な夏の煮物。冷やして夏の蒸し暑い日に

青ユズ(皮をすりおろす)	1個	A	みりん	大さじ2
だし汁とシイタケのもどし汁	合わせて33/4カップ(750ml)	A	濃い口しょうゆ	1カップ
			塩	小さじ1
			薄口しょうゆ(またはしょうゆ)	大さじ3
砂糖	大さじ3		塩	